

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100731		
法人名	アクセプトライフ株式会社		
事業所名	中の小路紀水苑		
所在地	佐賀市中の小路4-16		
自己評価作成日	平成29年3月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp</a>
-------------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成29年3月31日	外部評価確定日	平成29年5月15日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>職員一人一人が利用者様の立場に立ち、利用者様の残存機能を生かせるような介護が出来るように日々勉強や試行錯誤を重ねています。 地域の公民館に行く、お祭りに参加する等に努め、地域住民とのふれあい支援や家族の方にとっても来苑しやすい環境作りをし、利用者様が孤立しないお手伝いをしながら、地域の中で『明るく 楽しく 元気よく』の理念の基、家族の方々と共に家族同様の介護を目指します。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>立地が市の中心部に位置するため、運転が難しくなった家族にも訪問しやすい事業所である。また、職員一人ひとりが手間を掛けることを惜しまず、当然のこととしてケアに当たっている。職場としての事業所は自由に意見が言える環境であり、職員は自主的に動き、アイデアも活かされている。利用者が自分の家族であればと考え、笑顔を大切にし、チームワークで支え合っている。フランチャイズ本部での勉強会も用意され年間に様々な項目がある。日々のケアの中では、個別記録簿の特記欄を利用し、細かいヒヤリハットでも残すこととしている。それは随時確認され、改善できることは直ぐに対応している。パンフレットにもある傾聴、受諾、共有を実践し誠実に向き合っている。</p>
---

# 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で 明るく 楽しく 元気よく という理念の基、理念の実践を念頭に置き 日々の業務に取り組んでいます。	同左	理念は事業所を立ち上げる際に代表者が創り上げたものである。後に地域密着が謳われ、その文言が加えられた。シンプルな言葉で表現されているが想いは深い。職員の目に付き易い場所に掲示され意識付けを図っている。管理者は常に現場におり、職員のチームワークの良さにも触れている。理念を立ち戻る原点と捉え、笑い声が聞こえる様子にはそれが活かされているのがうかがえる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域公民館へ月1回の行事参加、地域祭りや運動会への参加等を利用者様と共に行っています。	同左	自治会に加入しており、回覧板から地域の情報を知ることできる。地区の一斉清掃や町の駅という公民館行事にも利用者とともに参加し交流を深めている。専門知識を活かした介護福祉健康相談を受け付け、中学生の体験学習にも事業所を提供している。苑行事であるクリスマスディナー会(代表者の友人シェフによる出張料理)は家族のほか、近隣住民にも案内は出されている。火災など緊急事態も含め、日頃から見守りや連絡を頼める関係は築けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護福祉健康相談を随時受入れる事をパンフレットにも記載しています。地域中学生の福祉体験学習の指導など実践しています。	同左			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	情報公表、外部評価などの取り組み、運営計画などを報告し、意見交換を行っている。また、頂いた意見は議事録に残し改善と質の向上を目指しています。	同左	運営推進会議には仕事のため欠席となるメンバーもいるが、行政側は代理でも出席者を出している。家族は全員に周知され、会議後には家族会も予定されている。約30分の会議時間ではあるが意見は活発に出され、延びることもしばしばである。この会議が事業所を知ってもらう貴重な機会であると意識し、出された意見には真摯に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が開催する、ネットワーク等に参加し意見交換を行っています。運営推進会議にて意見交換を行っています。	同左		行政側とは運営推進会議以外での接点もあり顔馴染みである。同業種の集まりや勉強会でも顔を合わせ相談なども言い易い。異動時には連絡も受けている。最近では成年後見人制度について問い合わせをした例がある。実直に対応してもらえる関係は築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会の実施や参加。マニュアルの準備、身体拘束ゼロ宣言掲示など行い、職員の拘束に対する理解を深め、必ず職員が見守る事にし、錠をかけないケアに努めています。	同左		指針があり入居時に説明をしている。玄関の施錠はしておらず、チャイムやセンサーの設置もない。身体拘束をしないケアには代表者の想いも強く、勉強会も開いている。職員は身体拘束の内容とその弊害を理解し、目配りやチームワークによって安全な生活を支援している。仮に外へ向かう利用者がいれば一緒に暫く歩くことが原則で、無理に引き返すことはない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料やマニュアルを使用し勉強会を行い職員の虐待に対する理解を深め、ミーティングや日頃の業務を通して勉強した事を常に生かし虐待防止に努めています。市開催のネットワークでの講演にも参加し勉強しています。	同左			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会に参加し、知識を深めるよう努め、職員ミーティング時に話し合っています。また、運営推進会議時に市の職員の方を講師とし勉強会を開催するなどに務めています。	同左			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者様、御家族様とゆっくり話せる時間を設け十分な説明を行い同意を得ています。改定時も都度説明し同意を得、理解納得に努めています。	同左			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苑内苦情箱、苦情担当者を設置。 苦情公的窓口の紹介を契約書にも記載し、口頭でも説明しています。 相談、苦情内容の経過を記載し改善に向け取り組んでいます。運営推進会議、家族会その他随時意見を頂く機会を設けています。	同左	来所は家族により様々である。事業所が市街地にあることで訪問しやすいと話す家族がある反面、なかなか来れないケースもある。毎月の利用料を送付する際に近況を添えているが、電話等でも伝えているため、コミュニケーションは図れていると自負もしている。 家族との会話から、ちゃんと食べているか、楽しく過ごしているかなどの想いを汲み取りケアに努めている。家族アンケートの回答には、事業所のサービスに大変満足していると応えたものが多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回全員参加の全体会議、随時意見や提案を聞く会を設け、意見交換の場にし、反映させるよう努めています。	同左	月1回の職員会議は18時から約1時間、休みの職員も自主的に参加し開かれている。ケアの目配りをしながら利用者も同じテーブルに居てもらうこともある。日頃から自由に発言できる環境であり、活発な意見が出されている。会議に諮るまでもないことは職員間の話し合いに任されている。また、管理者としては働きやすい職場となるように、職員との会話を大切にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各々の努力や実績など段階に応じたチェックリストを基に条件の整備などに努めています。	同左		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じた研修や資格を取る為の援助をしています。	同左		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と 交流する機会をつくり、ネットワークづく りや勉強会、相互訪問等の活動を通じ て、サービスの質を向上させていく取り 組みをしている	他施設との交流研修会の実施。 他施設との合同勉強会への参加を促 しています。	同左			
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本 人が困っていること、不安なこと、要望 等に耳を傾けながら、本人の安心を確 保するための関係づくりに努めている	基本情報作成時、入所前に担当のケ アマネジャーや病院よりの情報や本 人、御家族様の要望や不安点を十分 な時間を用いて作成。 初期プランを作成する為の担当者会議 なども行っています。	同左			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家 族等が困っていること、不安なこと、要 望等に耳を傾けながら、関係づくりに 努めている	自宅介護中困っていた事、不安点、今 後の要望等十分にお聞きし、それを受 け止めて、御家族様と相談を重ねなが ら日々業務に努めています。	同左			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本 人と家族等が「その時」まず必要として いる支援を見極め、他のサービス利用 も含めた対応に努めている	事前面談などを行っています。 必要に応じ体験入居期間なども設けて います。 基本情報だけでなく生活歴もしっかり 取ります。	同左			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場 に置かず、暮らしを共にする者同士の 関係を築いている	残在機能を残す為利用者様の出来る 事を一緒に発見し、喜怒哀楽を共に感 じたり、逆に利用者様から教わる事、 助言を頂く事、励まされる事も多くあり 感謝しながら日々の業務に努めていま す。	同左			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族より野菜の差し入れや、食器等提供もあり、協力しながら生活しています。 あるがままの生活状況を見て頂き苑行事にも御家族様に参加して頂きながら、食事介助など一緒に行い御家族様との絆を大切にするように努めています。	同左		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達や近所の方々がいつ来て頂いてもいいように面会時間は決めていません。 各室に家族写真や新聞の切り抜き等を設置していただき、写真を飾るなど馴染みの個室作りに努めています。	同左	入居するまで利用者がどのように暮らしてきたか、人間関係なども含め本人や家族、担当していたケアマネジャーからも話を聞いている。場合によっては利用していたサービス事業所や入院先からも情報を集めることがある。それらを基に関わりのある人々とも繋がっていけるよう支援している。具体的な例では電話を取り次いだり、季節毎の年賀状や暑中見舞いを書く手伝い、家族の協力も得ながら墓参りや食事に出掛けてもらうことなどがある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	どのような時にトラブルが起こりやすいか全員が周知し、トラブル発生時は直ぐにスタッフが仲裁できるようにしています。 利用者様同士お互いが助け合えるような環境作りに努めています。	同左		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	葉書を出す、苑行事にお誘いするなどに努め、現に退去された方々のご家族がお話に来られたり差し入れを持って来られたりします。	同左		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>							
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時の基本情報を十分にとる。 個人個人に合ったケアプランの作成と都度のカンファレンス、見直し。 日々の生活の中で思いを聞き取ったり発見したりします。	同左		利用者と接する時、職員が最も心掛けていることは傾聴である。自己評価では、毎日のように一緒にゆったり過ごす場面があると回答しており、利用者から教えてもらうことや励ましてもらうこともあると記している。そのような暮らしの中で、入浴中の寛いでいるひとときや、傍らで話し相手をしている時には想いを話してくれたりもする。それらは個別の記録簿に記し全員で共有している。内容によっては介護計画へ反映させることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様、御家族様と共に生活歴を作成し、これまでの生活環境を把握。ケアプランの見直しは担当だけでなく多くの職員と実施しています。	同左			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の状態を個人経過記録に記入していき、日々把握し、ケアプランと照らし合わせている。 1ヶ月毎のケアカンファレンスにて職員全員現状を把握しています。	同左			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを基に御家族様や職員とのモニタリングにて意見交換やアイデアを出し合い全職員が分かりやすい計画を立てプランを作成しています。	同左		介護計画の設定期間は最長で6ヶ月となるが、入居して間もない頃の1ヶ月毎から利用者によって期間は様々である。その間に変化があれば臨機応変な見直しも行っている。サービス担当者会議に家族の同席はないが、来所時などに話をし、要望は汲み取っている。残存能力の維持や、ちゃんとご飯を食べているかなどもその例である。日常の動作をリハビリと考え、すぐに手を貸すのではなく見守るケアや、食事に時間が掛かっても途中で片付けることなく根気強い支援などが実践されている。日々の経過は記録され、本人がよりよく暮らしていくために活かされている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の経過記録記入はもちろん、日々の申し送り、重要事項データにて全職員が情報共有化が図れるよう努め、プランの介護内容を日常業務にて実施出来ているか、必要なかを毎日チェックし、計画の見直しをしています。	同左		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	計画は見直し期間ではなくても状態変化に応じ随時見直すようにしています。看護師の健康管理の基、急変時の対応に、重度化、終末期の体制作りに努めています。 外出、外泊も希望に添えるよう支援しています。	同左		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事の清掃作業やお祭り等に参加にてお手伝いできる事を一緒にし、顔見知りの関係を作る事に努めています。又、地域の方との触れ合いを見守り支援に努めています。	同左		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時に対応して頂ける協力機関があり、予約を取り直ぐに受診できます。(必要時には往診も可) 医療連携を取っている病院だけでなく、利用者様御家族様の希望の医療機関を受診できるよう努めています。	同左	本人や家族の希望する医療が受けられるよう支援している。現在は協力医をかかりつけ医とした利用者が殆どである。入居時に医療体制などの説明を受け変更している。協力医がすぐ近くにいることや24時間対応であることなどがその理由である。外来受診には職員が付き添い、家族への結果報告は当日中に行われている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は利用者様の状態変化や気付きの報告や相談を管理者や看護職員へ相談しています。必要あれば医療連携のかかりつけ医の看護師に電話で相談できる体制を取っています。	同左		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、面会へ行き、退院への調整、今後の対応など話し合うよう努めています。 又、往診時には状態報告相談をDrに行い入院しても直ぐ対応できるよう努めています。	同左		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化、終末期の指針を説明し同意を得ています。 余命宣告などあれば、家族の面会も密にして頂き、都度相談しながら1ヶ月おきの計画を作成。状態変化に応じて随時話し合いながら変更や追加をします。	同左	これまでに看取りの経験がある。今後も希望があればその用意もある。協力医の24時間対応も心強く、看護師資格を持つ職員もいる。管理者宅も近く、夜間の急変にはすぐに駆けつけることができる。実際にそのケアが始まるとなれば職員へのフォローもあるため、勉強会を持つ予定である。容態の変化に伴い何度でも話し合いを重ね、本人や家族が納得して最期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルも準備し急変に備えてきちんと個々人を管理し、随時医師や看護師の指導を受けています。普通救命の受講を受けている職員もいます	同左		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年に2回実施。 消防署の職員の方よりご指導を受けています。 また、防災について地域の方々やご家族様よりご意見を頂き取り組みに反映させています。		年2回、昼間帯に行う避難訓練には消防署も立会い、利用者も一緒に避難を体験している。全ての職員は消火器や火災通報装置の使い方を承知しており、スプリンクラーの設置もある。その火災通報装置には近くのタクシー会社が登録され、そこから地区役職の方へ連絡がいく流れである。事業所周辺には官庁や公邸が多く一般住居が少ないが、この会社も含め、消防署や県警本部もすぐ近くにあり、緊急時の支援は確認できている。非常食や水の備蓄はしており、家族から一次避難場所を問われ、近くの公民館または小学校と答えている。台所周りの家具の固定や、外部の応援者が介助の度合いを知る工夫等々は検討中である。また、訓練後に反省点や課題の指摘があれば速やかに改善し全員に周知している。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>							
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時には親しみを込めて方言を使用したりしていますが、常に利用者さまを尊敬する心は忘れる事の無い様努めています。トイレ誘導時にはあからさまに行わないよう着脱更衣も全て個室にて行う。 個人情報取扱いは掲示し職員も周知徹底にしています。	同左		接遇研修もあり、もし不適切なケアがあれば時を置かず本人と話し、一緒に考えることとしている。トイレや入浴の介助では配慮を要する場面が多いが、利用者との信頼関係や家族であればとの想いでケアに当たっている。また、個人情報に対する職員の意識は高く、責任ある取扱いと管理を行っている。ただ、事業所内のみ掲示しているスナップ写真や居室の名札は、苦情にはなっていないが本人や家族に改めて承諾を得る予定である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好き嫌いや好きな食べ物を聞いたりしている。嫌いな食べ物は工夫して食べて頂けるよう配慮している。好きな事を見つけるよう努力し支援している。 洋服も個人の能力に合わせ選んでいただく。等に努めています。	同左			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間や曜日など入居者様の希望に合わせています。何事でも時間を要する方でもゆっくり声かけをし、自発的に行えるよう見守る事に努めています。	同左			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	スタッフの価値観で服を選ぶのではなく本人に選んで頂く。美容師来苑時にはご自身で好みのカットを伝えられカットしていただいたり、顔そりや眉カットをしていただいています。	同左			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の能力にあわせています。味付けなどの調理を一緒に行ったり、片付けをします。好みの食べ物や料理を聞いてメニューを変更します。残在機能を生かした食事介助を行う。などに努めながら利用者様、職員が皆一緒に食事の時間を音楽をかけながら楽しんでいます。	同左		献立は職員が作っており、利用者からのリクエストがあればいつでも応えられる。好き嫌いやアレルギーの把握もしている。事業所では食べることの大切さを特に重視している。時間は掛かっても自分で口へ運んでもらえるよう工夫もある。栄養補助食品やプリン等も常備され補食としている。誕生日には、該当者が多い月はまとめているが、手作りケーキや献立も特別なものが用意され皆で祝っている。敬老の日も家族を招き、職員が腕を振るった料理が並んでいる。台所からは料理をする音や匂いがして五感の刺激にもなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェック、水分量のチェックは毎日行い、カロリーなどもわかるバランスの取れた献立を立てています。食事がすすまない方には嗜好物を提供し補食としたり、スプーンの大きさ、長さ、テーブルの高さなどを変えて食べやすさをサポートしています。	同左			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは個人の能力に合わせて必ず行っています。又、歯科Drに口腔ケアの指導をして頂いています。義歯の消毒は定期的に行っています。	同左			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	下着、パット、紙パンツを日中、夜間、外出時に応じて使い分けています。全員チェックシートを用いて個別の排泄パターンを職員全員周知しています。可能な限りトイレにて排泄できるよう支援しています。	同左		排泄に関して自立している利用者はいない。管理者は、排泄はトイレへ、食事はリビングで皆と一緒にという想いがある。日中はできる限りトイレでの排泄を支援しているが、夜間も起床して誘導するケースもある。チェック表によりパターンが把握され、日中は布製の下着へ改善した例もある。便座周りに設置した手摺りは立ち座りを補助し、その動きは残存能力の維持へと繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、 飲食物の工夫や運動への働きかけ 等、個々に応じた予防に取り組んで いる	排泄チェックは毎日行い、常に個別の 排便コントロールを図っています。 便秘傾向の方には食物、飲み物、腸運 動にて可能な限り自然に排便を促すよ うに努めています。	同左		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をして いる	長すぎず、短すぎず個人の希望に合 わせて入って頂いています。 入浴の順番も考慮しています。 季節に応じた入浴剤で楽しく入浴して 頂けるよう工夫に努めています。	同左	入浴は週2回を目途としているが、お風 呂の準備は毎日できている。本人の希 望や必要があればいつでも可能であ る。入浴を拒む利用者はなく、寛いで歌 を口ずさむ人や想いを話してくれる人も いる。シャンプーやソープ類は事業所で 用意しているが、皮膚の弱い人は個別 にお願いすることもある。冬場の脱衣 場と浴室は温風ヒーターで管理され、 ヒートショック対策にもなっている。衣服 の脱ぎ着はできるだけ本人に任せ、羞 恥心にも配慮しながら見守っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の 状況に応じて、休息したり、安心して気 持ちよく眠れるよう支援している	経過記録を基に、睡眠パターンを職員 全員が把握するよう努め、場合により、 主治医の下で処方された薬剤で調整 を図ったり偽薬を使用することもありま す。 休息も個々人に応じた休息を取り入れ ています。	同左		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や 副作用、用法や用量について理解して おり、服薬の支援と症状の変化の確認 に努めている	個々人の薬袋があり薬の目的、作用を すぐに取り出せる場所に置き、職員全 員周知しています。薬包には名前を記 入し、日付け毎に分けて正しく服用で きるように管理しています。又薬局と連 携しきちんと服用出きる様相談したり 加工を個々人で変えています。	同左		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩等外へ出る機会は楽しみや気晴らしの場となっています。生活歴や現状を基に、役割を見付け、一緒に行うよう努めています。又日課を見つけ支援しています。 毎日身体を動かす時間を午前午後や食事前に取り入れています。	同左		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望は必ず家人に伝え、連れて行けるように支援したり、私たちが行ける所は苑行事で検討しています。(地域祭りの参加、紅葉見学、お花見など)状態に応じ、日常生活の中でもドライブに出掛けるなど支援しています。	同左	本人から外出の話が出ることもたまにある。それは昔行ったことのある場所で、家族の協力も得ながら叶えられるよう努めている。また、開花情報などが話題になれば興味を示す利用者もある。周辺への散歩は日常的に行われ、近くのデパートへ買物に行くこともある。歩行が難しい人は車椅子での外出となり、ドライブには介護タクシーを利用することもある。職員達の、皆で出掛けたいという想いは工夫を生み、全く戸外へ出ないという利用者はいない。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じてお金を持って頂くこともありましたが現在はいらっしゃいません。(御家族様立会いの下でスタッフも所持金額を把握していました) 外出した先で使用する場合は立て替えています。	同左		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば電話を使用して頂いています。葉書など支援しながらご本人に作成して頂き家族に送るなどに努めています。又年賀状や暑中見舞いを作成する支援もしています。	同左		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの声を呼び声と勘違いされる利用者様には音量に気を配る。夜間はトイレの電気は消さず分かりやすくする。既製品の表示プレートだけでなく暖かさを出す為、手書き表示や季節に合わせた飾りつけを行っています。居室内の電気の色を替え温かみのある色にしました。	同左		リビングの飾り付けなどは職員同士の話し合いとアイデアに任せている。吊るし飾りのさげもんは季節を感じさせている。光はブラインドで調節され、道路脇だが車の騒音も気にならない。利用者はそれぞれの場所で日中を過ごし、新聞に目を通す人もいれば洗濯物を畳んだり、おしぼりの用意を手伝う人もいて、それらが日課となっている。玄関には収納も兼ねたベンチが置かれ、靴を履く時の不安定さに配慮している。トイレや浴室もきれいに掃除され、嫌な臭気はない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングソファの置き場を変えたりしながら工夫する事で、一人の空間を作ったり、少人数で過ごせる場所を作っています。	同左			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族様に写真や本人使用の物を持ってきて頂いている為、私物の多い利用者様の個室は安心して過ごせる空間になっています。私物の少ない方は、苑で撮影した写真を飾ったりこちらで生活用品を準備しています。	同左		居室に持ち込む品物には、火気等の危険物以外に制限はしていない。利用者の中にタバコを吸う人もいない。タンスなどの配置や飾り付けは本人と話し合いながら、また家族もカレンダー等を持参して居心地良く過ごせるよう配慮している。歳を重ねるごとに手伝えることも少なくなり、掃除は職員が行っている。家族の希望があれば宿泊も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、風呂場、居室、玄関への手摺りの設置、浴槽内への滑り止め、マットの設置。スリッパ着用止め、利用者様の身体状態に合わせた履物の工夫をし、見えやすく、分かりやすい工夫で自立支援をしています。	同左			

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)	○	-	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	-	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	-	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)	○	-	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)	○	-	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。  (参考項目:30,31)	○	-	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	-	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	-	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	-	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	-	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目:11,12)	○	-	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	-	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	-	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない